

世界一高い展望台

エレベーターを降りてから後悔した。目の前のフロアーは一部分を除いて透明のガラス張りになっていた。高所恐怖症であってもなくても海拔 474m、100 階からの世界一高い展望台は、見学者の恐怖感を煽った。足元を見ていると下に真逆さまに転落しそうな錯覚を覚える。まるで空中を歩いているようで足が震えてくる。暫くしていると目が慣れてきて足元を見ず、遠くを見ていると恐怖心は薄らいでくる。ここからの眺めは何も遮るものはない。上海市の 1858 万人の人口を擁する街が一望できるのだ。黄浦江の川沿いに発展する街並み。近くには上海万博の会場も見ることができた。

ここは上海浦東新区に 200 年 8 月に完成した上海環球金融中心（通称：上海ヒルズ）。日本の六本木ヒルズに似た名前である。それもそのはず森ビルが設計・監修したとか。私達日本人にとって一層親近感が生まれた。

建物内には世界高水準の国際金融センター機能をはじめ、商業施設、オフィス施設、会議イベント施設もある。そして世界一高い場所（79～93 階）にある最高級ホテルも。この建物が万全のセキュリティとホスピタリティを誇る、アジアのそして世界のランドマークになることを願ってやまない。



一方、地上からビルの頂上を仰ぎ見ると、まるで槍が天空を突き刺しているように見える。角度によれば栓抜きのようなデザインのようにユニークだ。それにしても上海の発展は私の想像を遥かに超えるものがあつた。神戸、東京、大阪で育った私がまるでお上りさんのように思えてくる。次に上海を訪れることがあるとすれば、どんな未来都市に発展しているか楽しみだ。

撮影 2010 年夏